

令和元年 11 月 26 日
川崎市上下水道局

令和元年台風第 19 号による排水樋管周辺地域 における浸水被害についての住民説明会に関する議事録

- 1 日 時 令和元年 11 月 19 日（火）19：00～21：00
- 2 場 所 上丸子小学校体育館（中原区上丸子八幡町 8 1 5）
- 3 対象地域 山王排水樋管周辺地域
- 4 出席者
上下水道事業管理者 金子 督
上下水道局総務部長 大畑 達也
上下水道局下水道部長 鈴木 利之
上下水道局下水道部担当部長 松川 一貴
上下水道局下水道部下水道計画課長 室井 弘通
上下水道局下水道部下水道管路課長 小林 康太
上下水道局下水道部管路保全課長 後藤 正寛
上下水道局下水道部施設保全課長 清水 成利
上下水道局中部下水道事務所長 藤井 則明
上下水道局中部下水道事務所管理課長 松原 秀明

5 説明会議事

上下水道事業管理者：

川崎市上下水道事業管理者の金子でございます。台風 19 号による浸水被害に関する説明会の開催にあたりまして、一言ごあいさつを申し上げます。はじめに、この度、台風 19 号では多摩川の水位が過去に例を見ないほど上昇いたしました。多摩川の水が、下水道管を逆流したことによりまして、排水樋管周辺の地域において浸水被害が発生しております。結果的にこのような被害が生じましたことにつきまして、深くお詫び申し上げますとともに、被災された皆様には心からお見舞い申しあげる次第でございます。下水道事業者といたしまして、今回の事態を重く受けとめ、原因などをしっかりと検証した上で、今後、同様な事態に遭遇した場合でも被害を最小限にできるよう、しっかりと対策を講じてまいりたいと考えております。本日の説明会では、被害の概要、対応状況等について、できるだけ丁寧に分かりやすく説明をさせていただき、ご質問やご要望をいただく時間につきましても可能な限りとらせていただきたいと思いますと考えております。詳細につきましては、担当の課

長から説明をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

司会：

続きまして、説明会の進行等に関し、3点ほどご説明をさせていただきます。はじめに、説明会にご参加されている方個人が特定できる写真や動画の撮影はご遠慮いただきますようお願いいたします。次に、この説明会の記録を作成するため、録音をさせていただきますのでご了承ください。次に、この会場は、運営上、使用できる時間が9時までとなっておりますのでご協力をお願いいたします。それでは、配布した資料について、管路保全課長の後藤から説明させていただきます。

管路保全課長：

私のほうからはですね、お手元にお配りさせていただきました、A3のホッチキスで止まっている資料、こちらを説明させていただきます。よろしくお願いいたします。着席させていただきますして説明させていただきます。右下にページを記載しております。山王-2と書いてあるページをご覧ください。こちらは、浸水被害が発生した山王排水樋管周辺地域の位置図でございます。右下の凡例にもお示ししておりますが、赤い丸印の位置に山王排水樋管が設置されております。この山王排水樋管の役割は、緑で囲われた丸子その1排水区に降った雨を集めて、速やかに多摩川へ排水するための施設となっております。この丸子その1排水区は、汚水と雨水を同一の下水道管で排水する合流式下水道でございます。今回の浸水原因についてでございますが、浸水箇所には大量の土砂が堆積していた状況を踏まえると、想定を超えて多摩川の水位が上昇したことにより、河川の水が樋管から下水道を通じて、地盤が低い排水樋管周辺箇所でも溢れたことによるものと考えているところでございます。山王-3と書いてあるページをご覧ください。左側が位置図になっておりまして、左下の凡例にお示ししておりますとおり、濃い青線でお示ししておりますのが山王排水樋管、水色の線が、樋管に接続している下水道の幹線となっております。薄い水色のハッチがかかっているエリアが、上下水道局のパトロールで確認した浸水の範囲となっております。職員がパトロール時に確認したものでございますので、実際に浸水した範囲と多少の誤差があるかと思っております。大変申し訳ございませんが、その点につきましてはご容赦いただきますようお願い申し上げます。また、右側はパトロールの時に撮影した現地の写真を記載しております。位置図に記載のある番号の位置での写真となっております。それぞれの写真には撮影した日時を記載しております。この地域では、上下水道局で確認した中では、想定浸水面積が約45haで、南武沿線道路と南武線の間で赤い丸印でお示ししている地点で、およそ1.3mの浸水があったことを確認しております。山王-4ページをご覧ください。今回の台風第19号による山王排水樋管箇所の災害対応について、ご説明いたします。左上の図をご覧ください。赤い丸印でお示ししている山王排水樋管は、緑色の枠で囲んだ丸子その1排水区の雨水を多摩川へ排水する施設でございます。当該排水区は合流式下水道の地域

であるため、汚水と雨水を同一の管で排水しております。雨天時には、排水樋管の手前にある雨水吐室と呼ばれるマンホール内に設置された堰を超えた下水は多摩川へ排水される構造となっております。上段右側の樋管ゲート写真にお示ししているのが山王排水樋管でございます、縦 2.43m、横 1.5m のボックスカルバートが 2 つある 2 連の構造となっております。この樋管の縦断図を左下にお示ししております。縦断図に記載の数字は、多摩川の基準面から測定した高さでございます、樋管の底部の高さは 2.822m となっております。樋管に設けているゲートは、破線の部分に設置をされておまして、通常はゲートを上げて樋管を開けておりますが、このゲートを下げて、樋管の出口をふさぐことで河川から下水道への逆流を防止することが可能です。その一方、ゲートを下ろしている間に市街地に雨が降りますと、雨水の排水先を失うこととなり、内水氾濫を引き起こしてしまう可能性がございます。そのため、ゲートの操作は慎重に行う必要があり、操作手順に従い操作をしております。次に右下の図をご覧ください。樋管との高さ関係を整理した図を示しております。雨水吐室内の堰の高さは 3.49m、山王排水樋管箇所の最低地盤高は 6.545m でございます。なお、当該排水区は、過去に浸水被害が多く発生していた地域であったことから、平成 23 年度から平成 28 年度にかけて、時間雨量 52mm から 58mm 降雨に対応できるようグレードアップし、さらに既往最大降雨である時間雨量 92mm においても床上浸水とならないよう、丸子雨水幹線の整備などの浸水対策事業を進めてきたところでございます。山王-5 ページをご覧ください。次に、この山王排水樋管に設置されているゲートの操作手順などについてご説明いたします。山王排水樋管と記載のある上部の黄色く着色してある箱書きの部分をご覧ください。この操作手順では、多摩川水位が上昇し、浸水被害の恐れがある場合には、山王排水樋管ゲートの閉鎖の判断を行うこととしております。まずはじめに、四角で囲っている 3 点目の箇所に記載しておりますが、操作の前提として、降雨がある場合や、大雨警報が発令されている等、降雨の恐れがある場合は、山王排水樋管ゲートを全開にするとしております。これは、ゲートを閉鎖することは、内水氾濫の原因となりうるため、市街地等で降雨がある場合や降雨の恐れがある場合には、ゲートを閉じないこととしております。この箱書きの 1 点目をご覧ください。操作の第 1 段階の判断といたしましては、内陸に降雨または降雨の恐れがない状態において、山王排水樋管地点の河川水位が 3.49m を越えた時点で山王排水樋管のゲートを全開にするとしております。

市民：

すみません、この AP ってというのは、平常時の水位ってことでいいんですよね。

管路保全課長：

後ほど、ご質問のほうは・・・

市民：

説明が分かりやすいじゃないですか。

管路保全課長：

AP というのは、ある基準面の高さを表してございまして、荒川の工事基準面というのがあり

ます。多摩川の水位は、その基準面を 0 としまして、水位を計測しているということになります。で、河川水位が 3.49m を越えた時点で、山王排水樋管のゲートを全部閉じるということにしてございます。3.49m は堰の高さでございまして、この水位を超えると地表面には水は溢れないものの、下水道の堰を超えて多摩川の水が下水道の中に入り始めることが想定されますので、この時点で判断することとしております。その下の 2 点目でございますが、第 2 段階の判断として、田園調布（上）水位観測所の河川水位 7.60m において、周辺状況及び丸子ポンプ場の状況を踏まえ、ゲートの開閉を総合的に判断することとしております。中央の左の図は、台風第 19 号が上陸した、10 月 12 日～13 日にかけての多摩川の水位と中原区役所での雨量データを時系列で整理したものでございます。青い折れ線グラフでお示ししているのが田園調布（上）水位観測所の河川水位の記録でございます。今回の台風第 19 号により河川水位は 22 時 30 分に 10.81m という、田園調布（上）水位観測所での計画高水位である 10.35m を超える観測史上最高水位を記録しております。また青紫の棒グラフは中原区役所での雨量観測データを表示しております。この図の右側には、当日の山王排水樋管における活動記録を記載しております。今回、山王排水樋管における河川水位は 11 時 30 分に 3.49m を超えたことを現地で確認しておりますが、当時は排水区内で降雨などがあったため、操作手順に基づき、ゲートの閉鎖は行っておりません。さらに、15 時に田園調布（上）水位観測所の河川水位が避難判断水位である 7.60m に達したことを確認しておりますが、この時点では、排水区内で降雨が確認されており、また、台風第 19 号がまだ上陸しておらず今後大雨が降る懸念があり、ゲートを閉鎖することにより内水氾濫が拡大する可能性など総合的に判断し、操作手順に基づきゲートを閉めないという判断を行っております。その後、大雨警報が発令されている状態ではございましたが、降雨が実測されなくなったこと、河川水の影響により下流の丸子ポンプ場への流入量が大きくなり、ポンプ場が水没する危険性が高まったこと、河川水位が非常に高い状況であったことから、22 時 52 分に操作手順に基づきゲートの閉鎖を開始しております。その後、ゲートの閉鎖作業を行ない 10 時 50 分にゲートを閉鎖しました。また、16 時 50 分に現地にて河川の水位が 3.49m を下回ったことを確認し、ゲートを開く操作を行いました。以上が 10 月 12 日～13 日にかけての山王排水樋管のゲート操作に関する実態でございます。下の黄色く着色している箱書きをご覧ください。今回の浸水原因と今後についてでございます。先ほど山王-4 ページでご説明いたしましたが、丸子その 1 排水区では、丸子雨水幹線の整備など、浸水対策事業を進めてきたところでございます。しかしながら、今回の浸水は、下水道管理者としては内水氾濫を発生させることがないよう、ゲートの操作手順に従い操作を行っていたところでございますが、我々としても経験したことのない事象であり、多摩川が観測史上最高の水位を記録したことや、土砂の堆積状況から、樋管を通じて河川水が溢れたことによるものと考えているところでございます。また、今後につきましては、浸水メカニズム及び樋管ゲート操作に関する検証を進め、同様な事態に遭遇しても、被害を最小化できる方策を検討してまいりたいと考えております。なお、山王-6 ページには、山王

排水樋管周辺地域の地盤高図と浸水範囲をお示ししておりますので、後ほどご覧くださいますようお願い申し上げます。

中部下水道事務所管理課長：

続きましてですね、本日配布をしております、合同防災勉強会、行政の現状の取り組みと今後の取り組みに関する議事録についてご説明のほうさせていただきます。11月3日の日にですね上丸子山王1丁目、上丸子山王2丁目の町内会様とですね、合同でですね、災害に関する、水害における今後の取り組みということで、町内会の会合の一部お時間をお借りしまして、これまで取り組んでまいりました、平成29年の台風の被害を受けて今後浸水対策をどうやっていくかというご説明に加えまして、今回台風第19号の浸水被害についてご説明のほういたしました。その際にですねご質問をお受けしたんですけれども、その中でお答えできなかったご質問について最初に説明させていただきます。質問事項としましては山王排水樋管のゲート操作手順はいつ誰が作成したのかというご質問がありまして、操作手順につきましては、上下水道局で作成しております、直近ではですね平成29年の浸水被害を受けまして、平成30年にですね中原区の危機管理担当と連携をとりまして、皆様への避難の周知ですね、多摩川の水位の状況ですとか現地の水位の状況について情報を伝達するという仕組みを強化する見直しを行っております。平成31年以前につきましては昭和59年に山王排水樋管についての操作に関する手順が記録されておりますその後改訂を行っておるということになります。説明のほうは以上になります。

司会：

それでは、引き続いて質疑応答に入ります。できるだけ多くの方にご発言の機会を確保いたしたいと考えておりますので、大変恐縮でございますが、質疑応答は、お一人様概ね5分ということでお願いできればと思います。また、本日は座席を縦4列のブロックに分けさせていただいております。ご質問等は、ステージに向かって左の列のブロックの方から順に伺ってまいりますのでよろしく願いいたします。それでは、ご質問等がある方は挙手をお願いいたします。

質問者1：

大きな部分で2つまでは確認したいと思っております。金子上下水道事業管理者、議会で3度、今回も含めて答弁してますよね。29年の水害、それを何度となく答弁してますよね。ゲートのありかたというのをその時間聞いておりますよね。そこ、どう感じてるか教えてください。まずひとつ、金子さん。

上下水道事業管理者：

29年の浸水被害以降ですね、何度か議会で代表質問・一般質問で答弁させていただいていると思いますが、ゲートの開閉につきましては基本的にゲートの操作基準にしたがって

行っているということを答弁させていただいています。

質問者 1 :

重要だっていうことも聞いてますよね。わかっているはずですよ。じゃ、わかっているということで次の質問をさせていただきます。操作規程第二条、ありのまま教えてください。操作規程、ありのままですよ。目的です。それを説明してください、みなさんの前で。要領はどうだっていいです。操作規程そのものです。なにが書いてあるか。

管路保全課長 :

はい、ゲートの操作の目的といたしましては、多摩川の洪水・高潮及び遡上した津波による逆流を防止し、流域住民の生命や財産を災害から守ることを目的とする。ということでございます。

質問者 1 :

それが目的ですよ。逆流を防止するというのが目的でしょ。それ言ったよね、今ね。そういうふうにも目的に書いてあるよね。言ってください。それがなぜできなかったか。

管路保全課長 :

記載してございます。

質問者 1 :

逆流する、逆流しないようにするための樋管でしょ。ゲートでしょ。ねえ、それを閉めないというのはなんで閉めなかった。29 年のときどうした。9 棟が床上浸水になってるんだよ。その教訓はどこいった。山王 2 丁目と 1 丁目の一部を犠牲にしたんだ。そう答えろ。

管路保全課長 :

はい、29 年のときにですね、浸水被害が発生したということは、非常にですね強く重く受け止めているところでございます。そのときからの経緯といたしましては、さきほどちょっとご説明をさせていただきましたが、ゲートの操作、まずですね、区役所と連携をいたしまして、その情報伝達にしっかり取り組むということをやっておりました。ゲートの操作に関しましては、ゲートを閉めることによって降雨がある場合には、その開けておくと多摩川の逆流が考えられる。ただ、閉めるとですね、降雨がある場合にはその降雨によって浸水が発生してしまうという可能性があるということで、29 年にですね浸水が発生したときにですね検証いたしまして、ゲートをですねその開閉にかかわらず、開けて同じような被害があった場合ですね、ハード的にバイパス管でですね違う排水区に持って行って、その水を排除していくという・・・

質問者 1 :

改良はいいよそんなの。改良の話なんて聞いてないよ。教訓を聞いてんだよ。2 年前、最大水位ってゆーの 8.4、なったよね。避難勧告をしてもおかしくないんだ。ね。独居老人とか、いいですか、要介護老人、要介護の人たちっていうのは 7.6 のときに、もう、そういう指示をしなきゃいけない部分あるよね。大田区はそれをやってたんだよ、29 年のときに。でも川崎はやってない。一時的に 8.4 を超えて避難勧告をしている、そういうときも

あった、瞬間的には。だけど、今後の雨量の降りかたっていうのを見極めて、危機管理室のほうでは避難勧告を出さなかった。それは結果的に正解だったと私も思います。でも 2 年前だよ、まだ 2 年、その教訓って、ねえ、7.6 を超えたらもう道路も冠水して、しだすんだよ。で、8.4 になったら 9 棟が床上浸水になるんだよ。わかっているじゃない。なんでわかっていることをやらない。そのとおり、だって、逆流しているんだ。議会答弁では上流からの下水が流れが悪くなる。そうやって逃げてたよ。でも地元では浸水したときに魚が道路に浮いてたんだ。そういう事実があるんだ。逆流しているんだよ雨水ますから。でも議会答弁では、サラサラサラサラ逃げてただけだった。逆流を認めない。ゲートを閉めなかった。そのときも閉めてない。なぜ閉めないんだっていう話で、29 年のときにすったもんだやったんだ。それを議会で取り上げてもらったんだ。3 度となく、本会議と予算委員会に質疑出してる。その結果がこれだよ。どう言い訳すんだよ。オレ行政マンだったらできないよ。この丸子地区を見捨てたんだよ。捨てたんだ。その分の補償はするんだろ。そういう覚悟があつてきたんじゃないかねえのか。答えろよ。

管路保全課長：

いま、厳しいご指摘をいただいたところでございます。繰り返しになってしまうんですが、29 年のときからからですね対策は、同じ状況であれば排水ができるという案は検討してきたところではございます。今回の・・・

市民 1：

弁解を聞いてるんじゃない、今の答え全然なっていないよ。努力してねーじゃねーか。補償するかしないかって話になってんだよ。

総務部長：

このたびはほんとにこのような事態になりましてお詫び申し上げます。今回の浸水におけるゲート操作についてですが、やはり多摩川の水位がですね 1930 年の観測開始以降史上最高の数字を記録したということ、あと超大型の台風が近づいてきていて、50mm から 80mm の雨が降るといふ降雨予想が出ておりました。そういった中でですね、わたしどもとしては一生懸命対応させていただいたものと考えてございます。補償につきましては、今後検証を進めていくなかで、本日皆さまからもご意見を伺いますので、そういったことを踏まえてですね適切に対応していきたいというふうに考えております。

市民 1：

なに言ってるの。うちに罹災証明の書類きてるよ。国で送ってる紙みてみなよ。いくら補償するんだよおめーらはよ。はっきり言えよ。補償するなら補償する、補償しないならしない、責任とるなら責任とる。

質問者 1：

目的。まず二条の目的を言ったよね。それ答えたでしょ。

市民 1：

答えてないじゃねーか、なにも。

質問者 1 :

いや、目的は答えたよ。ゲートはなんのためにあるのか、逆流をしないためにゲートはあるって言ったよ。違う？

市民 1 :

じゃあ、なんで閉めねーんだよ。

質問者 1 :

だから、それは次の話でしょ。

質問者 1 :

ゲートを閉めるっていうのは、われわれの生命・財産を守らなきゃいけないから、逆流を防止するためのゲートというところの目的でいいんだよね。そういうふうを書いてあったんだよね。いいよね。それを閉めれなかった。閉めなかった。2年前の教訓として7.6になったら閉めてもおかしくなかったよね。なんのための貯留管なのよ。7.6で閉めてて雨が降ったら貯留管のほうに行くだけでしょ。違うの。なんのための貯留管なの。答えなさいよ。なぜ7.6で閉めなかったのか。

市民 1 :

だれが結論を出したんですか。その人が話してくださいよ。所長じゃないの？

中部下水道事務所長 :

ゲート操作の判断の件でございますけども、今回の台風19号につきましてですね、当日の水位が7.6まで上昇した時点におきましては、まだその時点でですねまだ市内に降雨が継続していて、まだ大雨洪水警報が解除されていないというような状況のなかで、さらに台風がこれからまた上陸してくるということでございますので、そのなかで今後ですね気象庁の予報によりますと、今後50mmから80mm程度の大雨が予報されていたということがございましてですね、ゲートを閉鎖することによりまして浸水被害が拡大すると考えまして、操作基準に基づきましてゲートの閉鎖を行わなかったということでございます。

質問者 1 :

ちょっと技術屋としてすごい恥ずかしいんだけどさ、ゲートの目的ってさ逆流を防止するためでしょ。国の規程でどういう技術基準になってるのか知ってんのかよ。ゲートの開け閉めって下流側の河川水位と上流側の支線の水位とを見比べながら判断するんでしょ。明らかに河川水位が上がっているような状況のなかでゲートを閉めないで、開けっ放しにするっていうのはどういうことなの。それ技術屋か。答えろよ。

中部下水道事務所長 :

ゲートを閉めなかったということでございますけど、ちょっと繰り返しになってしまうんですが、やはりその内水による浸水ということに関しましてですね、今後ですねどの程度の降雨があるかということについてはですね、予報のなかで最大で80mm程度の大雨が降ると予測がされているなかでですね、ゲートを閉鎖してしまうことによってさらに内水の浸水が拡大されてしまうという懸念がございました。

市民 1 :

先ほどから、内水氾濫のことを言われてますけど、逆流するときに、内水が多摩川に戻るとは、私はとても考えられないですけど。何のために説明しているんですか。逆流しているんですよ。内水氾濫を促進させることはあっても、冠水した水は多摩川には戻らない。

質問者 1 :

ゲートを開けるのは、河川水位より内水の水位が上がった時じゃないの。そういうふう
に国のほうに書いてあるのではないの。そのなのも知らないで管理しているのかよ。だれ
が国と協議してこの操作規定を作ったのよ。

市民 1 :

すごい良い質問をされているんですが、これに関連してのりくらりと、また 11 月 3 日
のように、話をかわされたら困るので、この時点でちょっと提案させてください。山王町
の当事者が、この判断の時に一言、二言意見を言わないと、これは解決しない。今回のメ
ンバーでおかしいと言ったは、下水の内輪のメンバーだけで決めているから、毎回、この
事が起こっている。最終決裁者は、私の個人的な意見ですけれども、川崎の市長。要は票
が入って落ちるかどうか、命がけで判断する人以外は駄目だ。それが、今回、マニュアル
通り、手順通りしたと言うけど、判断に基づいてやるんで、決してマニュアルではない。
その判断者に町内会の当事者を入れるべきだ。そうでなければ、今のまま進めるのだった
ら、最終報告もしくは、決裁者は市長。

質問者 1 :

今のメンバーで答えられますか。

市民 1 :

あんた方じゃ駄目だ。

質問者 1 :

操作規定そのものも答えられていない。情けないよ。

市民 1 :

メンバー代えなさい。

市民 1 :

だから、今回、申し訳ない、言葉挟んで。議事録を書いてもらっていると思いますけど、
それに対しては必ず返事をする。決裁者がおかしい。偏りすぎている。もっと川崎市
に上げるべきだ。こんな内輪の下水道等々でやっていて、何の進展もない。前回ものり
くらりで、まったく無駄だった。

(当日回答できなかった事項に対する回答)

ゲート操作に関する指揮系統につきましても今後検証を行い、結果をお示しさせていた
だきます。

質問者 2 :

私は下沼部で床上浸水まできた者です。前回の神社の時の説明が終わった後にも言ったのですが、今回の説明会が上丸子山王が対象になってですね、それで下沼部の方が、13日に町会に説明するから良いと言う事ですけど、住民に対する説明の機会が無いんですよ。回覧板も回ってないのでね。そこへ、ちゃんときちっと市の方から連絡して、私の家の前の下沼部の所も何件も被害を受けてますので、その人達にちゃんと、こういう会があるという事を、知らせてください。明日もあるのですから。早急にやってください。まず、それを1点目言っておきます。それで、今回の件について、私もいろいろ調べさせてもらって確認したい事があります。違っていたら言ってください。まず、今回のゲートを閉める、開けるの判断は、中部下水道局で判断するという事。それで、その管轄は、中原区、高津区の2つの区にまたがって、まわっていかなくてはならないですね。パトロールして行って。5つですか。確か5つの水門を見てまわると。それで、総合的な判断をして閉めるか閉めないかということをしている。閉める人というのは、ちょっとここも、私この間も他の人が質問しているんですけど、答えがあいまいになっているけど、区の職員が、何人いるのか分からないんですけど、それぞれのゲートに向かって閉めに行くのか。そうじゃなくて、区の方から、事務所の方からですね、町会も含めて担当者をお願いしている方に、閉めてもらうようにしているのかですね。その辺がどうなっているのかをはっきりしてほしいですね。私は、実はこの間、テレビでも調べて言ったのですが、個人の責任を問うのではなくて、そもそも門を閉めるか閉めないかという事が、私は素人ですから、素人の判断でも多摩川の水と、それから中の水の水ですね、水は上から下にしか流れないので、どちらが高いかによって、多摩川から内陸の方に入るのであれば閉める、逆だったら開ける。これは、国も言っているんですけどね、こんな単純な判断でいいんじゃないかと思っているんですけど、まず、これが間違えなのかどうかということ。もし、それをやるならですね、今後のことも含めてなんですけど、門の所に何ら監視カメラも無く、人がいちいち行かないと分からない。閉めるにしても手動で、水が一杯になっていて、結局、十何時間もかかったわけでしょう。閉めるのに。だから、そういう状態になっているという事について、今まで分かっていたはずなんですけど、きちっと自動に切り替えられる中央監視棟か何かあって、そこからきちっと24時間監視体制になっていて、これ今、閉めなくてはいけない時は、ちゃんと閉めるようにするとか、そういう措置が出来て当たり前じゃないですか。東京なんかではあちこちにそういう所が出来ている訳でしょう。そういう事を今までやって来なかった。今後ちゃんとやるのかどうかについてもお聞きしたいと思います。それから、さっき、いろんな話があったと思いますが、ちょっと弁護士さんと相談して、今回の件についての学習会を開こうと計画しております。後ほど、みなさんにもチラシを配りたいと思います。これは、国に対する国家賠償とかも含む問題だと思いますので。札幌地裁では、住民側が勝利したケースもあります、責任があると認めればね。勝訴していることもあります。そういう事もありますので、後でチラシで配りますが、まず、その質問に対して答えをお願いします。

中部下水道事務所管理課長：

1点目の下沼部の町内会様の説明会の開催についてなんですけど、現在ですね、下沼部町内会様と調整を行っております、12月6日の金曜日、ちょっとですね、正確な事が決まりましたら、お知らせに参る予定なんですけど、別途開催する予定でございます。質問2点目です。ゲートの操作はだれが行うのか。中部下水道事務所の管理課の職員がおりまして、その職員が現地の排水樋管ゲートの所まで行きまして、手動でゲートの操作を行っております。

市民2：

だから1日ぐらいかかっちゃったの。12日から13日までかかったのは手動でやるからかかっちゃったの。そう新聞には載ってるよ。

市民2：

当日の作業員は、今日来ていないのですか

中部下水道事務所管理課長：

本日は、当日の作業員は来ておりません。

市民2：

その人がある程度、責任あるのと違うの。なんか、じっと見てたというじゃないの。高津の方の人から聞いた話だと、高津の方は膝まで水がきたから、やばいと言って逃げたってこと。丸子の方の担当者は腰に手を当てて、見てたというじゃない。いますよ、現に見ている人が。そんな事であんた、説明会じゃないじゃない。お詫びのひとつも言わないで。一言も言っていないじゃん。何が説明会だ。説明なんか聞いたって何もなんねんだよ。現実には現実なんだよ。それより、補償の問題にはしろよ。腰に手を当てて見ているんだったらね、命綱でも付けてね、川の中に潜るとかさ、そのぐらいやっても駄目だということなら分かるよ。何も偉そうに腰に手を当てて見ていることはないじゃん。

下水道計画課長：

先程、最後にゲートの手動を自動にというお話がございました。これにつきましては、今回の件も踏まえまして、ゲートの開閉の自動化であるとか、監視の仕方とかですね、そういう所については検討してですね進めて参りたいと思います。よろしくお願ひします。

市民2：

いつ結論がでるのか。

下水道計画課長：

早急に対応の方はして参りたいと思いますが、検討するにもお時間は掛かりますので、ただ、出来るだけ早くやっていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

質問者3：

この後も恐らく、樋門に関する質問が沢山あると思うので、違った観点から質問させて頂きます。持ち時間5分ということですので、5分以内に収めますので、ちょっとお付き合

ください。こちらの地域から 60km 位上流に奥多摩湖、それを堰き止めているのが小河内ダムですよね。そこの話です。質問は三つです。この三つの質問の前に前振りをします。1、2分です、お付き合いください。まず、台風が上陸する 12 日の前日の 11 日の午前 8 時の段階で、小河内ダムの貯水量は、88%でした。余力は 12%しかありません。まず、ここが私は不思議です。そもそも小河内ダムというのは、利水ダムですよね、治水ダムではなくて。災害を守るための治水ダムではなく、水資源を利用する利水ダムなんですね。多くは東京都の水道であったり、水力発電に利用されていると思います。ですから、利権問題もあると思うので、ダムを空っぽに出来ないというのは、素人の私にも分かります。ですが 88%ですよ、余力 12%しかない。例えば 2 割 3 割減らすことは出来ないのだろうか。これは川崎の管轄ではないでしょうけれども、あそこのダムの貯水量マックスで 1 億 8 千 5 百万 t だそうです。3 割減らしたって問題ないと思いません。私には素人だから分かりませんが、むしろこんなのはプロの方が答えやすいでしょうけれども。さあそして、余力が 12%しかない小河内ダムなんですけれども、その日、11 日の午後 2 時、14 時から緊急放流、余水吐きが始まります。その緊急放流は台風が上陸した翌日、台風が上陸してもなお、続いていました。その余水吐きの緊急放流の量は、先日部長からもお話がありましたけれども、毎秒 750t です。みなさん毎秒 750t、ぴんときませんよね。イメージしてください。例えばこの小学校にある 25m プール、これ 3 杯分ですよ。3 杯分、1 秒間に。例えばみなさん、イメージしてください。東京ドーム床面積が 5 万 m²、体積が 124 万 m³です。天井の一番高いところが、ここよりも遥かに高い、62m。その 62m の天井のてっぺんまでが埋まる水が、毎秒 750t ということは、1,653 秒、30 分かからないの。これが、何時間も放流され続けたということですよ。ちょっとイメージ出来ました。恐ろしいことですよ。1974 年の何でしたっけ、あの災害は、狛江、狛江災害、あの時よりも放流量が多いんですよ。この地域一帯がまさに岸辺のだぶだぶですよ。そういうことですよ。さあ、そしてさらに加えて言います、先程、部長から話がありましたけれども、一昨年、2 年前の台風 21 号の水害、浸水この地域ありましたけれども、その時も小河内ダムは毎秒 391t の放流をしていました。これ、600t ですか、失礼しました。600t の放流をしていました。これらの情報は、東京都水道局のホームページからアクセスして調べることが出来ます。是非参考になさってください。さあここから質問です。まず一つ目。いいですかすみませんね。毎秒 750t というのはどれくらいこの地域の水位が上がるのでしょうか。どれくらいこの地域に危険性が高まるのでしょうか。先ほど千九百何十何年だから記録的な水位だけおっしゃってましょね、そのうちの一部は小河内ダムの影響はありますよね。いったいどれくらい水位が上昇するのでしょうか。実際には多摩川流域に降った雨やあるいは多摩川の支流から流れ込んでくる河川水も加わるとは思うんですけど、質問は単純です。毎秒 750t の放流があるということはこの後の水位はどのくらい上がるのかということです。さまざまな状況を検証し、検討しますというお答えはいりません。これが一つ目の質問。そして二つ目です。そのような情報が事前に川崎市に入ってくるのでしょうか。情報だけではありません。検証であった

りあるいは相談、協議っていうんですか、打診そういったものは事前に川崎市にあるんでしょうか。この事前っていうのは2、3時間前っていう意味ではありませんよ。2、3日前もしくはそれ以上前にそういった相談なり打診が川崎市にはあるのかということです。だって皆さん考えてください。台風というのは地震と違って事前に予測できる災害ですからね。これが二つ目の質問です。さあそして三つ目の質問。そのような連絡が川崎市にあったとして、あったとして川崎市は、はい分かりました、承知しましたとしか答えることができない立場なのでしょうか。われわれが住むこの川崎市というのはただ単に受け入れることしかできない、悲しいみじめな情けない立場なのでしょうか。この3点お答えたくください。お願いします。

管路保全課長：

まず1点目。750tはどれくらい河川水位は上がるのかというご質問でございますが、河川の断面等ですね、一律ずっと同じということではないこと先程お話がありましたとおり、どこでどれくらい雨が降ったのかということがございまして、それがどれくらいなのかということについてはその把握をして・・・

質問者3：

ごめんなさい。今回のことっていうよりも、そもそもそんなことは事前にデータとして検証したものはないんですか。わかりますよ。今回のこのことを検証して答えることはいらないって言ったでしょ。そうじゃなくって、小河内ダムの放流っていうことはあることなんだから。それを想定したものっていうものはないんですか。もうちょっと加えて言いましょう。部長間違っていたら指摘して下さい。多摩川のこの辺の水量っていうのは平常時毎秒35tですよ。35tです。その2倍じゃありませんよ。20倍の水が流れたっていうことですよ。ですから先程にも言ったように毎秒750tっていうのはどれくらい上昇するのかを聞きたいのです。この辺りの地域の話です。

管路保全課長：

繰り返しになりますが、750tがきた場合にどれくらい上がるかということについては把握していないというところでございます。

質問者3：

要するに過去にそういったデータを取ったこともない、過去にそういった研究をしたことがないことを答えてるということによろしいですね。そういうことですよね。今回のことを言ってるんじゃないんですよ。じゃあ例えば毎秒100tだったらどうかとか、毎秒200tだったらどうかとか、データそのものが過去にないのですか。調査するなり研究するなり、そういうことを言っているんですよ。今回のって言っているのではなく。まあいいや答えられないでしょ。次の質問お願いします。

管路保全課長：

情報ですね・・・

質問者3：

あのね、ちょっといいかな。だいたいね僕はね、のんびんだらりんと予定調和の話をされて質疑応答の時間を無駄にしているのが何より気に入らない、だいたいね、あなた達職員の中に何人かこの小学校のスリッパを履いていますよね。われわれは履いていなかったり上履き持参で来ているのに。そういうところからして気に入らない。天皇皇后両陛下だって最初はスリッパ履きませんよ。そんなもの用意されたって履いちゃいけない。そういったところから誠意ってみえてくるんですよ。いいですか、ですからのんびんだらりんと言いませんね。簡潔にお答え下さい。誠意をもってお願いします。

管路保全課長：

小河内ダムの情報につきましては 1 時間おき F A X で情報が入ってきます。以上です。スリッパの件は・・・

質問者 3：

スリッパはいいです。飛ばしてください。承知しました。情報が入ってくると。それに対して川崎市は、はいそうですかって受け入れることしかできないということによろしいですか。

管路保全課長：

その情報ですね、河川水位なので、事務所はですね、河川の水位を見てますので。

質問者 3：

いやいやですから、僕が聞いているのは、のんびんだらりん止めましょうよ。ですから放流の連絡が来るってことですよ。それに対して川崎市は意見することはできない立場なんですか。

管路保全課長：

そうですね。

質問者 3：

わかりました。だそうです。

質問者 4：

単純な質問をいくつかさせてもらいたいと思います。ゲートを閉めた場合、今回のような泥の進入はなかったのでしょうか。単純な質問です。

管路保全課長：

今回土砂があったのは、多摩川の水が影響しているということが考えられますので、そういうことになるかと思います。

質問者 4：

分かりました。そうした場合、ゲート閉めたら今度は下水道の内水氾濫ですか。なんか難しい言葉ですが、雨水、下水道による浸水は想定はできたのでしょうか。その場合は推定される浸水の深さはどれぐらいなのでしょう。

中部下水道事務所管理課長：

閉めた場合の被害、浸水深がどれくらいかということにつきましては、今現在検証を行ってからですね、今後、あの、計算は今の段階としておりません。

市民4：

要するに日常的に計算はしてないということでしょう。日常的に、普段から。

質問者4：

すいません。今データ等はないということなんでしょうけど、今回台風19号非常に強い勢力でですね、直撃してきた訳ですけど、今後は地球温暖化に伴って同クラスまたはこれ以上の勢力の台風が来るということは容易に想像はできるんですね。そうした場合、ゲート云々もあるんですけど、来年度のことを想定したうえで、上下水道局も含めて、川崎市または神奈川県全体含めて危機管理体制を是非とも構築していただきたいと考えます。それからですね、これも単純な質問なんですけど、いただいた資料で山王5、活動記録ってのが右にあるんですけど12日の22時52分、ゲート閉鎖を開始、翌13日午前10時50分ゲート全閉、ゲートの閉鎖に10時間かかっているんですね。なんでこんなに時間がかかるんですか。その間に多摩川から泥水が街中に溢れてきて多くの家が床上浸水被害こうむっているんです。なんで10時間もかかるんですか。

管路保全課長：

まず1点目のご質問ですが、台風19号が強い勢力で来たということで、これから地球温暖化ということでこれからもこういうことがあるのではないかと、先程もご質問がありました今現在ですね、瞬時に水位がどうなっているか、ということが出来るという状態ではございません。そういったことができるのか、即答はできませんがご質問とおりでできるだけ最善を尽くせるように今後検討していかねばいけない。強く思うところであります。

中部下水道事務所管理課長：

ゲートを閉めるのに10時間かかってしまったという原因なんですけど、22時52分ですね下流こちらの上丸子山王町2丁目の下流にあたります下沼部の方にですね、ポンプ場、丸子ポンプ場というのがございまして、丸子ポンプ場の・・・

市民4：

中丸子のガス橋のところでしょう。分かりやすく言ってよ。

中部下水道事務所管理課長：

ガス橋のところのポンプ場が水没しそうになったということが発生しまして、それを軽減させるためにゲートの閉鎖を始めました。段階的っていうのは、なかなかですねゲートが何らかの原因で、多摩川の水位が下がった後にですね、流木とかいろいろな物を、草とか枝とかがかなり付着しておりましたので、一回目の操作、二回目の操作ではゲートが下がらなくて、手動で下げておるんですけども、動かなかったっていうのが実情でございまして。

市民4：

整備不良なんだね。整備してなかったんだね。

中部下水道事務所管理課長：

ゲートの点検につきましては、毎年ですねゲート屋さんの方で一度、分解整備点検行っております。それ以外につきましては毎月一回私達中部下水道事務所の直営になるんですけど、直営でゲートの点検を行っております。

市民4：

すいません。その時に必ず開け閉めしてんですか。

中部下水道事務所管理課長：

はい。ゲートの開け閉めについては

市民4：

点検って見るだけでは点検じゃないですよ。

中部下水道事務所管理課長：

はい。ゲートの上げ下げの点検も行っております。具体的には新聞報道にもありますように水位がない状態で何分ぐらいでゲートが降りるか。その後何分ぐらいでモーターを使って巻き上げるんですけど、その時間も計っております。

市民4：

だいたいどれくらいかかっているの。

中部下水道事務所管理課長：

だいたい水位がないときですね、下げるには一分。そのことについても今回甚大な被害が発生しまして、このゲートの検証を今後進めていって、今後の対策等検討してまいりたいと考えております。

質問者4：

最後の質問にとらせていただきます。先程言いましたように台風の勢力が強くなっている傾向である。我々今回大変な被害をこうむったわけですけども、今後に向けての恒久対策をどのように考えているのか。東京都の方では、地下の巨大な貯水池とか、そういった設備があって非常に有効だというふうに聞いております。川崎市につきましても、そういった地下の貯水池みたいなものを作る構想はおありでしょうか。

下水道計画課長：

今頂きましたご質問の中でまず浸水被害の軽減策、これから行っていく中で、短期的、来年また台風が来るかもしれません。そこにつきましては短期的に出来ることとして、具体的には決まっておりませんが、一つの方策としては、今後ゲートの閉の操作が出てきたときに、そこで滞ってしまつては困るということで、仮のポンプではないが、そういう物を活用しながら応急的な対策をやりたいというふうに思っております。また、中期的には11月3日に、今まで、上丸子山王町1丁目2丁目の町会様とですね、役員の方だけでしたが勉強会ということで2年前の被害を受けてバイパスの案を被害の軽減策の工事をやろうということで、準備をしてきたところですが、今回この様な台風が来てしまつて被害が出てしまったということは心よりお見舞い申し上げます。最後、ハード対策の中

で貯留管の話も出たと思うんですが、やはり今までの雨と違うということは意識をしてやってきました。今まで1970年からやってきた中で、今回史上最高水位またハイウォーターを越えたという状況もございますので、そういうものを踏まえたと、ただ閉めて大丈夫かということについては、当然色々な問題があると思います。ですので、そういった雨水を貯める様な、今現在計画はございませんが、そういうことも踏まえながら考えていきたいと思っておりますので、しかしながら雨水貯留管というのはすごい長い時間が掛かる事業ではございますので、その辺ご理解をいただいた上でですね、われわれもしっかり頑張りたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

質問者4：

ぜひともお願いたします。

質問者5：

先ほどから色々皆さんの意見が出ているということで、こちらのほうに書いてあります、原因は全地域において、多摩川の逆流によるものだということをお認めなんですよ。よろしいですよ。じゃあ、それについて、どう対策を打っているのか。それ以外何も無いんです。11月3日、2年前の台風のご説明会を聞きました。2年前の説明会は11月3日に行われたんですよ。いいですか、本当に2年も掛かってるんですよ。皆さん、ここに書いてあるように、検証して対応策を考えます、今後について。と書いてありますよね。何年後に解決するんですか。私はこの地域に、生まれてから70年以上住んでます。こんなに被害のエリアが増えたのは初めてです。いいですか、これは真摯に受け止めてください。災害で水かさが多かった、雨が多かったじゃないんです。半分は皆さん公的な事務官の人災です。違いますか、それを真摯に受け止めて、早急に対策案を出すべきです。今、後ろのほうで20年掛かるぞといわれてます。確かにそうです。うちの地域は、申し訳ないんですが被害がありませんでした。山王1丁目でも被害にあわない地域があります。しかしですね、40年前までは被害にあってたんですよ。うちの地域も。ちょっと雨が降ると、水はけなくてすべて床下浸水なんて常時あったんです。それが何でですかといいますと、川崎市が隣にはしってるんですよ。そこに下水管の処理が無いんです。引き込みがあるんで道路は引き込まれています。昔はあれ●●●(病院名)っていう病院でした。ところが今、幼稚園・保育園になっていますが、あそこの地域より低いので、私のところはいつも台風が吹くと床下浸水、雨がみんな溜まって下水が処理できない。何故かっていうと、下水処理が無いんです、下水管が無いんです。川崎市の道路なのに。じゃあどうしたら良いのか。そこからですね、約100mまで側溝で下水に流していた。だから周りの方はみんな浸水されていた。それに陳情してですね、川崎の道路に入れていただけるのに10年掛かってたんですよ。川崎市の道路に。で、今はその道路が、下水管があるために、今度浸水がほんとに無かったというぐらいの場所なの。だから、この様に、要は多摩川が溢水してなったんなら仕方ないですよ、自然災害だし。そうですよね。しかし、今回のように多摩川に

流す水が流せなかった。逆流した。じゃあ、それを門閉めたらどうしたらいいの。迂回路も何も作らない。ただ端的に水が溜まるからしょうがない。そんな言い訳って無いんじゃないですか。ちゃんと全てを対応するべきです。それからもう一つ、中原区の危機管理課に言います。いいですか。多摩川が溢水、それから鶴見川が溢水それから火災が起こったときに、このエリアは危ないですよっていうマップが知らされています。しかしですね、大雨洪水注意報が出た時にですね、この辺は、今言ったように下水処理が満杯になって水が溜まってしまうかもしれないっていう危険地域を何で表示をしてないんですかね。おかしいんじゃないですか。大雨洪水注意報は災害じゃないんですか。そういう物は何も知らされていない。後から住んでいる人達あわててる。そんなのはおかしいですよ。いつまでに対策できたら、このエリアは解消しますという事前のものを住民の方に教えてあげるべきです。以上です。

下水道計画課長：

先ほどのご質問の中で、洪水とか高潮につきましては、マップというものがございます。で、下水道につきましては、今までは浸水実績図ということで過去 10 年間につきまして浸水のあったことを示してきてございました。ただそれだけですと、あくまでも過去にあったことしかわからないということで、今現在ですね、先ほどお話しが出たように想定される最大の降雨がある場合に、どれくらいの浸水のエリアがあって、どれくらいの浸水深がおきるかというマップの作成のほうを進めてございます。予定では来年度、作成公表するような形で現在進めてございますので、出来るだけ早く進めたいと思っておりますので、ご理解の程をよろしくお願いいたします。

管路保全課長：

最初の方にご質問いただきました、今日の説明会で対策が無いじゃないかということをご指摘いただきました。台風が来て一箇月経つのですが、今回の事象をしっかりと検証してやっていると、対策は来年の 3 月を目途に方向性を出して、次の雨季には何かしら出来る対策が何かないかということで先程説明がありましたが、仮のポンプ車を配置できるのかとかですね、短期的な対策としては検討していきたいと思っております。あと、長期的な対策としては抜本的な対策としてなにかしら検討していかなければいけないと考えております。

質問者 6：

私は 18 年前にローンを組んで家を買いました。そのときの条件が、●●●（ケーブルテレビ事業者名）に入ること、と条件にありました。テレビを見るのに何でお金を払うんだと思ったんですけど、今回それがとても役に立ちました。私はその●●●（ケーブルテレビ番組名）という中で、多摩川の映像を見ることが出来ます。家にいて随時見れます。その中で、今回録画したんですけど 15 時 53 分には多摩川のゴルフ場が浸水し、マラソンコースが水没しています。それでも樋管を閉じないっていうのはどういう基準なんでしょう

か。さっきから 7.6、7.6 って言われていますけど、ゴルフ場・マラソンコースが水没しているのに、なぜゲートを閉めないという基準になるのでしょうか。それだったら樋管の設計ミスもあるんじゃないのでしょうか、と思いました。先程の資料 5 の方で 13 日の 10 時 50 分にゲートを閉めたってありますけど、私の記録した映像では、12 日の 19 時にはサイクリングコース直前まで水が満杯になってきています。多摩川が切れるんじゃないかって心配したくらいです。その辺の数字の考え方とかどうなっているのでしょうか。不安でたまりません。お答えください。私は画像を持っています。

中部下水道事務所管理課長：

多摩川の水位の、田園調布(上)水位観測所というものが、山王排水樋管の上流側上丸子天神町の東京側にございまして、そちらの水位を判断の基準にしております。それで山王排水樋管の箇所になりますと、上流側の水位観測所ですので、現地においては約 1～1.5m 多摩川の水位が低くなるというのを経験的にわかっておりまして、その時点で先程も説明させていただいた市内に降雨がありまして、今後台風が川崎市に向かってくと横浜中央气象台の発表で今後 50mm/h もしくは局地的に 80mm/h の降雨があるという予報がございまして、7.6m の時点で降雨がある、今後台風がやってくるということでゲートを閉めないという判断を行っております。

質問者 7：

質問を何個かさせてください。ちょっと厳しいかもしれませんが。活動記録 12 日がありまして、15 時から 22 時 52 分まで約 8 時間ありますがその間の活動記録が何もありませんが、何をしていましたか。あともう 1 点ですね、今管理されている方が大勢前にいらっしゃると思うんですけども、管理されている方全員立っていただいて現場は見ましたか当日。さっきから水位何 m とかどうのこうの言ってますけども、それ数字に表せない危険さとかもあると思うんですが、皆さん現場は行って見てみましたか。そこを確認させてください。それを見たうえで総合的判断になるのか、それとも事務所か何かにおいて、ああやばいね。ってそんな感じなのか。その辺の判断能力を確認させてください。あと、最後にもう 1 点ですね、この A3 の紙の責任の所在ですね、一番最後、今後について検証し、同様な事態に遭遇しても被害を最小化、これ同様じゃダメですよ、これ以上のこと今後起こり得るんですから。で、被害は出しちゃダメです。はなから最小化って言っている時点で、被害をまた出すつもりですか。ゼロにしてください。そのくらいの気合ないで、今日何しに来たんですか。まず一つ目の質問から。全員立って現場を見たかどうか手を上げて教えてください。見てないでどうやって判断したのかもちゃんと教えてください。早く立ってください。すいません。全員立ってくださいということですので、それに手を上げてください。どういう判断をしたかもちゃんと教えてください。答えられないのであれば、一人ひとり誰が何処で何をしたかも聞きますよ。それくらいの責任を持ってやっていたのかを聞きたいです。被害を受けているんですから。あなたたちのように他人事だと思っていないんですよ。

施設保全課長：

私は施設保全課長という立場でございまして、処理場、ポンプ場の責任を負う立場でございまして。10月12日から13日にかけては、本庁で、待機というか、処理場・ポンプ場の連絡調整、それから状況把握といった業務をしてございました。上丸子山王町の現場には、12日13日とも赴いてはおりません。

下水道管路課長：

私は下水道管路の設計をする部署の課長でございまして。台風が来た12日につきましては、私は自宅におりまして、13日に出勤して対応するという役割がありましたので、当日は私は現場には行っておりません。

中部下水道事務所長：

私は現場の管理をしている中部下水道事務所の所長をしてございまして、現場の確認についてはですね、常時現場に行っているということではございませんけれども、12日の日に1回、あと13日に1回、現場の方を確認してございます。

中部下水道事務所管理課長：

私はですね、12日の朝からですね、中部下水道事務所におりまして、部下が上丸子山王その他排水樋管の水位測定ですとか、浸水が始まる直前にですね、地元の方に避難の呼びかけとかの指示をしておりました。現場の方はですね、12日に1回、13日翌朝ですね、それと夕方の2回、確認の方をしております。

管路保全課長：

私は事務所です活動の情報を統括というか集めて収集する立場ということで、12日から13日にかけてですね、本庁舎の方に待機してまして、ずっと情報の総括をしております。現場の方には行ってません。

下水道計画課長：

私は10月12日につきましては、13日の朝に行くということで、12日は自宅の方におりました。当然ニュースとかを見て状況のほうは見ていました。13日ですね、朝に会社の方にいきまして、計画課なので主に情報の収集ということですので、そういう対応の方をさせていただきました。現場についてはすぐにはちょっといけなかったんですけど、その後ですね、見に行かせていただきまして、やはり、泥ですね、そういうものについて今回、とてもひどい状況だったなということは感じております。

上下水道事業管理者：

市の対応といたしましては、12日の朝、災害警戒本部、市長をトップといたします災害警戒本部が設置をされまして、私もその本部員として会議に参加しておりました。併せて上下水道局内部に、上下水道局内会議を設置いたしまして、関係部長、関係課長をですね、メンバーとする警戒態勢、連絡体制を構築しております。12日から13日にかけては、夜通し本庁におりまして、水道施設、下水道施設のさまざまな現場状況をですね、収集いたしまして、必要に応じて、災害警戒本部の方に報告をするという状況でございました。

私は当日は現場に行っておりませんが、12日のうちにですね、一度、こちらの山王の方にお邪魔しております。

下水道部長：

私の場合です、基本的には本庁に勤めておりまして、11日の夜に泊まりました。12日の夜も泊まってですね、ここにいます管路保全課から情報を受けまして、それを先ほどの会議のところの情報にまとめるために会議をしたりということでした。現場につきましては当日は行ってませんが、台風のあとに何回か現地を見て回りました。

下水道部担当部長：

主に水処理センター、ポンプ場の総括をしております。12日、13日でございますけども、私も本庁勤務でございまして、市役所の本庁舎の中で総括をしていたということでございます。下水道部の部内の、管理者からご説明のあった会議に報告をし、情報共有を図っていたところでございます。

総務部長：

私も同様にですね、12日から13日にかけて本庁舎におりまして、当時の上下水道施設の被害状況等のとりまとめをしておりました。従いまして現地の方には行っておりません。

質問者7：

はい、すみません、ありがとうございます。そしたらですね、ちょっと何点か質問させていただきたいんですけども、まずみなさんがちょっと自信ありげに、翌日何回も見ましたといってますけども、翌日行っても何の意味もありません。あともう1点がですね、今いらっしゃる方、全員、現場を見ていませんよね。実際先ほど会長さんとか、ゲートを見て危ない危ないという話が出ていましたよね、それをどうやって総合的に判断して閉めなかったのかお答えいただけますでしょうか、現場見ないで、数字だけで判断していいものかどうか、ですね、はい。誰が答えるかも分からないような方たちが出てきているようじゃ、この会の意味がないのですけども、あの、ちゃんとしていただいて。

中部下水道事務所長：

総合的判断ということでございますけども、先ほど後藤の方からですね、冒頭で資料等の説明もあった部分と重複する部分もございまして、まずですね、降雨がある場合ですとかあるいは大雨警報が発令されていると、いうところの中でですね、降雨の恐れがある場合には、基本的にはゲートを全開するという形です。その後ですね、また降雨または降雨の恐れがない場合につきましては、現地での降雨量ですとか、あるいは気象予報、雨域のですね、移動状況ですとか、台風の進路予測、それと多摩川の水位等とその変動傾向ですね、それと居住域での降雨状況等を勘案いたしまして、さらに現地でのマンホール内の下水道関連の水位の変位状況などの両方を総合的に判断してゲートの開閉を判断することになってございます。

質問者7：

はい、わかりました。では、総合的というのはそこで判断されたということで理解しま

すが、今後の対策として、総合的判断にいたって今回失敗をしているわけですね、大失敗しているわけですね。その後、たとえば今いらっしゃる方が、もし今後同じようなことがあった場合は、現地に行って調査する、それで現場を見て判断する、そういったお約束はできるのでしょうか。先ほどパトロールの者に行かせたとかいっていますけども、その人任せにしていること自体で間違っているところもあると思います。

中部下水道事務所長：

今後のゲートの操作の判断ということでございますが、今回のですね、台風19号によります多摩川の洪水等という状況がございますので、このゲート操作がですね、判断基準につきましてもですね、当然これだけの被害を出してるということもございますので、今後当然の見直し、あるいは実際、じゃあ現場でどういう判断をしていくのかというようなですね、判断基準等のですね・・・

質問者7：

すみません、判断基準ではなくて、あなたたちが現場に行くのかどうかというのを約束してもらえるのか聞いているんですけども。

市民7：

行くに決まってるよな。

中部下水道事務所長：

今回のですね、現場のパトロールにつきましては・・・

質問者7：

それ、下の人たちがじゃなくて、あなたたちが行くかどうかというのを約束してもらえるのか聞いているんです。

市民7：

行くわけないよ。

質問者7：

判断したあなたたちが、失敗してるけどあなたたちが今後は責任を持って管理をしてくれるのかというのを聞いているんです。

中部下水道事務所長：

今後ですね、現場の方に行きまして、ちょっと頻度につきましては、今の段階で例えば何時間に1回いくとかというそういうのは言えませんけども、当然、現地を確認の上ですね、ちょっと判断基準を見直しましてですね、それに基づいて、判断してまいりたいというふうに考えております。

質問者7：

それでしたら、今の言葉でいきますと今後大小分からないですけども台風が来た際はそこにいらっしゃるどなたかが現場に行って、写真なり何なり確認していただけるってお約束でよろしいですか。

中部下水道事務所長：

はい、できる限りの対応をしてみたいと思います。

質問者 7 :

できる限りだとかいうことになるので、約束をしてください。

中部下水道事務所長 :

当然その現地確認を含めてできる限りのことはやっていきたいということを・・・

質問者 7 :

できるかぎりだと答えにはなっていないので。

市民 7 :

やるって言えばいいんだよ。

質問者 7 :

あと最後の質問の、被害まだ出すつもりでいらっしゃるみたいですがけれども、そのへん期限決めて被害ゼロにさせていただきたいんですけども、そのへんの期限とかも決めてちゃんと対策してください。

上下水道事業管理者 :

われわれ全員がですね、現場・現地をですね、その時点その時点で確認することはできません。ただそのために現場の事務所があって、現場の担当課長がおりますので、しっかりそこはやらせていただきます。例えば今回のですね、5 樋管、5 樋管ある中でですね、確かに手が足りなかったんじゃないかというご指摘もいただいておりますので、それについては、本庁の私、事業管理者としてですね、応援体制を含めて、しっかり組みたいと思いますし、現場の確認、でその判断間違いないようにですね、できるようにしっかり体制を次の雨季までにですね、取らせていきたいと考えております。

質問者 7 :

じゃあ、今回の判断は間違いだったということによろしいですか。

上下水道事業管理者 :

間違いだったということではありませんけれども、結果としてこれだけの被害が出たという事実に向かってですね、やはり足りないところがあったかもしれない、という部分についてしっかり検証していきたいと思います。

質問者 7 :

かもではなくて、間違いを役所だから完全に認められないのか、じゃあ個人的意見としてはどうですか。あなたの意見でいいです。役所通しての意見じゃなくていいです。判断が間違っていたかどうかというのを、イエスかノーかはっきりお答えください。

上下水道事業管理者 :

判断は間違っていなかったと思いますけれども、ただ今のその閉める閉めないという考え方がですね、本当にそれでいいのかっていうことについては見直す必要があるというふうに考えています。

質問者 7 :

はい、判断は間違っていなかったのにこれだけの被害が出たっていうことは対策が今後必要ですね、そしたら先ほど一番最後に言いました、同様な事態に遭遇しても被害を最小化、これは被害ゼロにしてください。同様じゃだめです。これ以上のことを想定してゼロにしてください。間違っていないのにこっだけ被害が出たってことは、さらに被害がでる可能性があるんです。これいつまでにゼロにできるのか、今日は無理でしょうから、ちゃんと文書なりなんなりで、来年の雨季までには絶対対策してください。お約束をお願いします。

質問者 8 :

今回の台風で、うちの実家が 84cm 浸水して、家具も家電もアルバムも思い出も全部だめになっちゃったんですけど、直すのに 800 万から 900 万ぐらいかかって、お金がかかってすぐに動けない状態です。先ほどからお話を聞いていると、検討、検討、議論というお話があると思うんですけど、来年も再来年も台風がくると思うんですね。その部分に向けて市がというか上下水道が動いてもらえないと、僕たちも 800 万かけてなおして、また同じ被害にあって全部だめになってしまうと困ってしまうんですけど、そのところっでもう少し、早く期限を決めて対策をすることっていうのはできないのでしょうか。

下水道計画課長 :

今ご意見いただいたとおり、われわれとしては早急にやっていきたいというふうに思っております。ですので、来年の台風が来る前までにまずできること、例えば一例として先ほど申しあげましたように、ゲートの操作の見直しの話も出ております。その中でまた閉めたときに仮のポンプであれ、できうる対策ですね、そういうものを早急に取っていききたいというふうに思っております。また、中期的な視点、長期的な視点でもですね、とりえることっていうのは、やはりまず、先には、検討しないことには事業の実施というものができませんので、気持ちとしてはですね、早急なスピード感を持ってやっていきたいというふうには思っております。その点ご理解のうえですね、宜しくお願ひしたいと思います。

質問者 8 :

いつになったら安心して暮らせる地域になるんですか。この辺は。

下水道計画課長 :

なかなか難しいご質問なのですが、私どもとしては、あのやはり市民の皆様には安全で安心して過ごして頂けるように頑張っていきたいと思っております。しかしながら今回の台風を踏まえると、今までになかったことがあったっていうのも事実でございますし、そこはやはり先ほどのご質問者の方からも出ましたような、地球温暖化であるとか、これから台風の今まで関東に来なかったようなものが来るようになってくるとか、そういうところがあると思いますので、そういうものを踏まえながらやれることをしっかりやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひ致します。

質問者 8 :

検討している間にもう一回同じ台風が来て、直したのにダメになっちゃった場合、誰が責任をとってくれるんですか。

下水道計画課長 :

すいません。我々としては繰り返しになってしまうのですが、少なくともできることをしっかりやってきたいと思っておりますし、来年までに出来る事は時間が限られております。その中でやれることを、先ほども申し上げたとおり、まだ一例でしかお話ができてない、ご説明できていないんですけど、例えば、仮のポンプを入れてゲートを閉めることも踏まえてやっていくとか、ベストな体制で、ベストを目指してやっていきたいと思っております。また、雨水貯留管であるとかそういう大きな整備には必ず時間がかかりますし、検討なくしてそういう大きなものはできません。ただ、今後こういうことが今現実的に起きていることもございますので、そこにつきましては今後将来踏まえて安心してすごして頂けるように何が出来るか真剣に考えていきたいと思っております。

質問者 9 :

ちょっといいですか。偉そうなことを言われたら、非常に腹が立つんだけどね、今日は下水道局が来ているんだから、まず一つ質問したいのは、来年の下水道の予算はどれだけ要求しているんですか。それが 1 点。その次に、我々災害は自助が基本だと思っているんですよ。その自助をはかるに、お宅の下水道から逆流してきた水がね、全部その部屋を汚して普通の水だったら全く問題ないのに下水だから困るわけですよ。私が質問したいのは、まず来年下水、川崎市は非常に財政力が豊かだといばってますが、本来のインフラを整備していないからじゃないかと。じゃあ下水道は来年、何倍要求しているのかというのを聞きたい。でないと口先だけじゃないですか。その次にですね、我々災害は自助の精神が必要だと思っておりますが、うちのマンションは貯水タンクを 1,000mm、1,000mm の貯水タンクを作っているんですよ。それは建築課が指導しているんです。つまり我々にはそういう犠牲を強いらながらですね、さっきから水門を閉めるとか閉めないの逡巡をしておったと、その理由はですね、内水の降雨がですね、どんだけ降ったら水門を閉めないんだよと私は言いたいわけですよ。ということは下水道はですね、ちゃんと整備されていないと、この幸区と中原区は合流式ですよ。他とは違いますよね。ということはそんだけ浸水の被害が想定されているわけですよ。にもかかわらず加瀬の処理場はちゃんと動いてたんですか。逆流してますよ。一番最初に新聞情報であったのは鶴見川の氾濫だったですよ。鶴見川に水が入らなくなったんじゃないですか。実際は。だから逆流してきたんじゃないですか。それとその逆流するんだったら、下水が樋門、樋管を閉める閉めないの話をしていますが、私どもが自助をやるうと思っても、下水からの水を逆流を止めないといけないんですよ。それを止めるには下水管にですね、止水栓を作らなきゃいかなのですね。それを下水道局がそういう負担、整備をやって頂けませんか。来年の予算要求で。そうしたらうちの中の

塀を作ればいいということになるんですよ。

下水道計画課長：

まず下水道事業の来年度の予算でございますが、建設改良関係で、約 190 億の予算で事業を予定してございます。

質問者 9：

前年度比ですよ。前と同じでやってたら意味ないでしょ。

下水道計画課長：

あのやはりですね、下水道事業全体のお話で恐縮なんですけど、当然下水道事業も借金をしながらやってございます。その中で毎年度できうる建設的な投資をですね、そういう枠の中でやらせて頂いてますので、この枠というか事業費が 190 億でやってまして、少なくとも 2 年前は 180 億でした。

質問者 9：

つまり、あんたはこの被害に対してさ、何も対応しないってことじゃないか。役人的に言えば。

下水道計画課長：

いえ決してそういうことではございません。

質問者 9：

そういうことになるじゃん。予算要求をしないってことはさ。

下水道計画課長：

言葉が足りなかったんですけど、今回の被害もございました、国の方としましても・・・

質問者 9：

国じゃないだろ市だろ。

下水道計画課長：

我々の下水道事業っていうのは国のお金と市のお金を一緒に合わせて事業をやらせて頂いております。その中でですね。

質問者 9：

半分だってあるだろ。

下水道計画課長：

最後までお聞き頂きたいんですが、予算につきましては前年度と同様ではなくてですね、補正予算であるとかそういう予算を活用してですね、やっていきたいと思っています。

質問者 9：

違うな。全然。何にも今日来て帰ったらそれしかないんじゃないの市役所は。予算を獲得しろよ。

下水道計画課長：

予算を確保しないということではなくてですね、予算を・・・

質問者 9：

管理者の金子さんに責任を持って答えて下さいよ。

上下水道事業管理者：

今、室井が答えた来年度予算については、通常毎年毎年積み重ねてしっかり続けていかなくてはいけない事業がありますので、その分の予算と基本的には考えて頂ければ良いと思います。今回の19号を含めた、災害対策としましてはですね、12月議会、今回は間に合わないんですけど、3月議会で補正を組みます。それから一年間掛けてやる予算についてもですね、当初からしっかり盛り込めるようにこれから庁内の調整をさせていただきますので、よろしくお願い致します。

質問者10：

みんなの話を聞いて感じたんですけど、新丸子に住んでいる方が数年前まではお祭りの時はお水、水浸しになったっていうんですね。何年前まで東町会あたりの方達は、台風とかなんかで2、3回は水浸しになって大変な思いをしたっていう話を聞きました。今回、その方達に伺ったら、今回は全然被害もないし、綱島街道までは何でもなかったっていうんですね。で、うちの山王1丁目と2丁目の間に雨水なんとか管っていうのができたんですけど、そのできたっていうのが、その後どうなっているのかが理解できなくて、あれができて1丁目と2丁目がかかり被害が大きくなったんじゃないかっていう感じがします。2丁目と1丁目は犠牲になったって気がして仕方ありません。

下水道計画課長：

今お話がありました施設なんですけど、丸子雨水幹線ともうしまして、平成23年から平成28年ぐらいにかけて整備をした施設でございます。お手元の資料のですね、山王の4ページをご覧ください。この緑色の太枠で囲ってあるエリアがこちらのエリアの排水をしているエリアの中にですね、真ん中の方にL字、ほぼL字形で丸子雨水幹線という緑色に書いてございます。この施設の目的と致しましては、この地区の計画されている降雨52mmが元々の整備水準だったのを10年確率に対応するように58mm、時間あたり58mmの雨に耐えるように施設の整備をしたものでございます。この整備をしたから逆に山王町地区が浸水してしまったということではありません。やはり今回の原因と致しましては、多摩川の高水位からですね、下水道施設を通じて、河川水が入ってきてしまったということですので、丸子雨水幹線がなにかこちらの地区に悪さをしたということではございませんのでご理解・・・

市民10：

川の水がそっちに入っちゃったからでしょ。

下水道計画課長：

あの実際ですね、こちらの施設につきましては、今回の台風の中では当然空の管の中に多摩川の水がきて、入ってるというのは間違いないです。また通常今までは作ってからどうだったのかというお話もあると思うのですが、こちらにつきましては我々できてからで

すね、施設の状況の方を見てきてございます。その中で近年で一番大きい降雨なんですが、平成 30 年なんです。去年の 8 月の 27 日に 1 時間あたりに相当する 88mm の強い雨がこちらの地区降りました。しかしながら浸水被害は発生しておりません。で、そういう点を踏まえるとすね、丸子雨水幹線の効果ってものが出ていると考えてます。

質問者 11 :

本質的に聞きたいことは後にあるんですが、雨水幹線のことを仰られましたので、まずそのことから。数字で言うと時間 52 ないし 58mm 対応できるというふうに言っておられますが、今回は山王の、どの雨水量を見ていきますとそんな 52 とか聞いてないんですよ。これ 10 分ごとで 6mm ですから 36mm とかそんなもんで、ずーっと、さっきから言っている 52 とか 58、これ積分じゃないかって思うんですけど、それはまず訂正して欲しいということ。で二つ目。良いですか二つ目。今後って言うか再発防止です。これ一番関心があって、住民といま前に座っている方と全然かみ合っていない。たぶん何回やってもかみ合わないんで、致し方ないっていうか 100 歩譲るとして、再発防止。で、さっきから室井さんが自慢して言ってる雨水管。で、前回の山王町の説明、勉強会で 8200t を貯める水量を確保したと、で同じく前回の資料で 45ha が冠水したと山王町でね。高さ 1m と 45 万トンで単純に割ると 50 本ないとこの山王町だけで 50 本ないと貯めきれない。でさらに他の地区の高津の方を入れるとたぶん 100 万トンくらいになるんじゃないかな今回。樋管を通して逆流したんですね。今回の災害はまずまずの被害で終わったっていう、冒頭言った人もいましたけど、おんなじ立場でこれみてるんだったら大間違い。当事者意識がなさ過ぎる。で、それに対してもう一度再発防止。具体的に今言わなくても結構だから、山王町との勉強会でこそそそやらないで、その都度提示して欲しいということ。それと聞き捨てならないのは最後に一つ。丸子のポンプ場が浸水しかけたんで門を閉めた。不心得もいいところじゃないか。山王町浸水してんだ。どこを守ろうとしてるんだよ。いい加減なことは言わないでくださいよ。

下水道計画課長 :

丸子雨水幹線です。今回効果が発揮できなかったという点につきましては、繰り返しの申し訳でございますが、やはり多摩川からの影響です。瞬間的には当然 8,200t 貯まったんでしょうけど、到底多摩川の水量にはかないませんのでここで・・・

市民 11 :

そうしたら門を閉めるべきというのがあなたたちの立場でも議論すべきだったじゃないんですかといっているわけ。さらっとね、閉めませんっていう、至ったところが百歩譲って再発防止に本当になるのかなと懸念して言っているんです。

下水道計画課長 :

その点につきましては、その来年の 3 月に向けてです。今回の浸水の事象であったりとかゲートの操作です。そういうところを検証をして、整理して、公表させていただき

たいと思っています。その中でですね、やはり見直せる部分は見直してやっていくと、整理をきちっとしてですね、対応のほうをしていきたいなというように考えております。

下水道部担当部長：

丸子ポンプ場が水没しそうになったんで閉めたということで、確かに皆様の地域が浸水している中で、閉めなかったということがあるんですけども、ポンプ場が水没してしまうとですね、台風が去った後の日常生活ができなくなってしまいます。というのは、山王4ページを御覧頂くと、丸子その1排水区というのが緑色で囲まれていまして、その下に丸子その2排水区というものがございます。で、その丸子その1と、丸子その2排水区、これを併せて丸子ポンプ場から、汚水を、加瀬水処理センターの方に送っております。ですので、ここでポンプ場を水没させてしまうと、台風後の日常生活すらも危うくなってしまいます、ということがございましたので、ここはゲート操作をように私共の方も依頼をしているところでございます。

市民11：

日常生活が出来てないんですけど。

下水道部担当部長：

すみません、汚水を、トイレを使えなくなるということでございます。

質問者12：

さっきポンプの話がでましたけど、まあこっちは40年前、50年前から水が出ていて、その中でポンプがつかえなくなるなんて想定をしているのであれば周りを囲えばいいんですよ。水が入らないようにしてからまず考える話でね。入る入らないじゃなくて。まあそれは、まあいいとしても。この山王-5の、山王排水樋管は操作手順に従いゲートを操作、その操作手順の中にあります、降雨がある場合は大雨警報が発令される等の降雨の恐れがある場合は、山王排水樋管ゲートを全開にすると、これは全水位においてこれは適用されているんですか。それと、降雨がある場合となっておりますけど、大雨警報は13日まで解除されてないんですよ。これ解除されてないのに、なぜ22時52分にゲートの閉鎖を開始しているんですか。これ、閉めちゃいけないんですよ。操作手順に従っているのであれば、閉めちゃいけないですよ。従ったんですか、これは。あのね、洪水警報についてはね、10月12日の7時5分から10月13日の16時3分まで洪水警報はそのまま発令されたままです。また、大雨警報についても10月12日の7時5分から10月13日の3時37分まで、午前ですね、解除されてないんですよ。にもかかわらず、ゲート操作を行っているということについてはどうお考えなんですか。これは降雨だとか警報だとか関係ないんじゃないですか。総合的判断である中部下水道所長が判断できるんじゃないですか。

中部下水道事務所長：

前提条件といたしまして、降雨がある場合や、大雨警報等が発令されているなど降雨の恐れがある場合は、山王排水樋管ゲートは全開ということですが、実際にですね、当

日の降雨の状況等を見ますと、山王-5の資料にもございますが、おおむね、あの12日の日のですね、22時30分頃ですね、こちらを境に降雨が収まっているということがございます。実際、雨雲の動き等も確認しますと、それ以降ですね、大きな雨は、多分無いだろうという風なところを判断いたしまして、それと先程もありましたけれど、丸子ポンプ場の水没の恐れがあると、ということがございましたので、22時52分にゲートのほうの閉鎖を開始したという判断でございます。

質問者12：

いや、そうじゃなくて警報が出てるのだからいじっちゃいけないんだと。いつてるじゃない。ポンプ場がどうだとか関係ない。こっちもみんな家の中に入ってんだから。おたくらポンプ場が大事かも知れないけどこっちは家が大事なんだ。いじっちゃいけないんだ。なぜ、いじったんだ。いや、あなたの判断はどの水位でもいいの、これ。水門近くのAP3.49と田園調布との間は1キロあるよ、これ。この水位の違う0点は一緒なわけ。APとはいってるけど。水門の水位の0地点と、田園調布観測所の(上)地点の0地点は一緒なんですか。これ津波が来たときには対応出来ないですよ。上り側なんだから観測所は。そもそもそういうこともあなたたちは検証してない。あなた、所長だよな。中部下水道のな。あなたが判断できるんだよな。総合的判断が出来るんだよな。総合的判断を開示を俺は求めてはいるけど、公文書で。そのどういう総合判断なのかしりたいよ、それ。降雨の内容が関係ないのであれば、ゲートに外水を侵入させるなよ。侵入させる前に閉めるという操作手順書に変えればいいんだよ。操作手順が間違えてるから、操作手順に従って間違いが起きているんだよ。これをまず変えたほうがいい。予算なんか必要ないよ。明日にでも変えられるから。どうせ検証しねえんだから。

中部下水道事務所長：

仰るとおりですね、今回の多摩川の洪水という事象についてですね。そもそもゲートの操作についてですね、見直しというものが重要だというふうに考えておりますので、今後ですね、検証を進めていきたいと思っております。

質問者12：

検証について、あなたたちは必要ないので。有識者で、第3者委員会でやってくれ。あなたたちじゃ出来ないから。2年前から言ってるのにできてないんだから。だから、必要ない。市長を含めて変わったほうがいいかもしれないな。第3者委員会を設立しろよ。明日にでも。有識者を集めてな。なんなら参加してやってもいいぞ。

質問者13：

誰も質問していないから1点だけ聞きたい。いいですか。排水というか、水がたまりましたよね、道路も含めて。その時に、泥がすごくたまっていました。で、その泥を、放水で水ががが流していました。で、勿論住民の方も水でがが流していました。そうすると側溝も含めて相当な泥がたまっているんじゃないかと想像できるんですが、土がた

まっている、泥がたまっているとなると、流れる水の量、たまる水の量が減るのではないかなと普通で考えれば思うんですが、そういう泥の、側溝を含めてですけども、そういう泥の除去とか、そういうのはやられないんでしょうか。どれだけきれいにして流して、その下にある側溝も含めて、そのまま放置した場合、同じような水量じゃなくて、更に少ない水量の雨でも冠水するということが起こりえると思うんですが、その点はいかがなんでしょうか。掃除をする可能性はあるんでしょうか。1点だけ、お話をせよと、ウチの前に側溝があるんですね、それを持ち上げようと思いました。ビルメンテナンスの会社の方にも来てもらってあげようとする、コンクリートが重くてあがりませんでした。あの、特殊な工具を使わないとあがらないのかもしれませんが、そういう掃除というか、メンテナンス、道路なので、市の持ち物だと思いますが、いかがなんでしょうか。お掃除はされるんでしょうか。

中部下水道事務所管理課長：

ただいまの、側溝、ます等の清掃につきましては、あの中原区役所の道路公園センターで、以前です行っておりましたが、今回お話をお聞きしましたので、後ほどご住所を教えていただいて、側溝の清掃をですね、中原道路公園センターでやってもらえるように伝えます。また下水道管の清掃につきましては、13日からですね、随時下水道管きょ内の調査を、中部下水道事務所の職員で、浸水したエリアを蓋をあげながらですね、中を確認しまして、下水道管きょの緊急清掃のほうを、1週間ほどかけてですね、行っております。

市民13：

私道はしないっていつてるんですけどね。それはどういうことなんですか。消毒も私道はしないって、中原区役所は言っています。その道はね、われわれだけでなく、川崎市民も通ってる。利用してるんです。それなのに、私道はやらない。どういうことなんですか。どっかの区役所とおなじじゃないですか。住民票が無ければ、その場所にいけないと言う様な、区役所がそうやって判断してるって、まったく一緒です。

市民13：

すみません、自宅の前だけやっても最終的に川に流れるんですよ、たまったエリアから川までを清掃をやらなければ意味が無いんじゃないですか。

中部下水道事務所管理課長：

すみません、川までの排水樋管につきましても、今回の台風19号で、土砂がかなり流入していたことを確認しております、緊急的にですね、多摩川の中の排水路の浚渫を行っております。それとですね、現場のマンホールの中も職員が中に入りまして、土砂の堆積の無いということを確認しておりますので、排水樋管につながるルートについては、流れには問題ないと考えております。

市民13：

私道は。

中部下水道事務所管理課長：

すみません、私道内の清掃につきましては、中部下水道事務所ではですね、管きよの清掃の方はちょっと、申し訳ありません。中部下水道事務所では、管きよの清掃は私道内は出来ないことになっております。

市民 13 :

それを判断できないから、あなたたちには。市長も含めて聞きたいわけですよ。答えなさい。答えられない能力がさ、そこが被害にあって・・・

下水道部長 :

基本的には私道につきましては、われわれが皆様の用地に立ち入ってやることは基本的には出来ませんので、その辺は御了承いただきたいなと思っております。よろしく御願い致します。

市民 13 :

じゃあ、自分でやれってことですか。下水なんか自分でできるわけないだろうよ。

司会 :

申し訳ございません。時間もおしておりますので、総括的な事項を鈴木下水道部長からお話させていただきます。

下水道部長 :

本日は説明会にご参加いただきまして誠にありがとうございました。冒頭にもお話をさせていただきましたけれども、今回のこの事態につきましてはですね、われわれも大変重く受け止めているところでございます。今日ですね、皆様に厳しい御意見、ご要望等々色々いただきましたけれども、改めましてですね、その言葉をですね、しっかりと受け止めてですね、今後ですね、しっかりと取り組んでいきたいなというふうに思っております。今回のですね、ゲート操作につきましてもですね、なぜ逆流してんのに閉めないんだよ、ということ。確かにございます。先ほど管理者が言いましたが、その判断につきましては、我々としてはしっかりやったつもりでございます。しかしそれが本当に正しいのか、どうなのかということにつきましては、今後ですね、しっかりと検証していきたいなというふうに思っております。で、結果として、この地域にですね、多くの浸水被害をおこしてしまいましたが、その原因につきましては、今後ですねしっかりと検証しましてですね、今後同じことを繰り返すことの無い様に、検討を進めていきまして、来年三月までには一定の方向性を、皆様に示していきたいというふうに考えております。またですね、先程からでますように、来年の雨季までには早期に出来ること、ゲート操作のですね、見直しですね、それと、先程から出てます、ポンプ車の設置、水がたまっているときに直ぐポンプで、はけるような、そういう即効性のある取り組みについてもですね、取り組んでいきたいと思っております。それと共にですね、先程ありましたように、雨水貯留管であったり雨水調整池であったり、そういう中長期的なですね、ところもですね、しっかりとですね、検討していきたいというふうに思っておりますので、よろしく御願いしたいと思います。

本日はお忙しい中、ありがとうございました。

司会：

本日の質疑応答の内容は、本日の回答が無かった事項につきましては、後日、上下水道局のHPにて公表いたしますので、ご参考にしていただければと思います。なお、HPをご覧になれない方につきましては、お帰りの際、受け付けにお知らせいただけますよう御願ひ致します。それではこれもちまして本日の説明会を終わります。

市民：

ちょっと司会の方いいですか。前のほうちょっといいですか。

司会：

すみません。これ以上もう出来ませんので申し訳ございません。

市民：

一分だけ頂戴よ。一分だけ

市民：

次回はいつですか。

司会：

次回は明日同じ時刻にまたここで行いたいと思います。

市民：

最後にちょっと御願ひしたいことがあります。短期、中期、長期の方向性なり、案だとかかっていう部分について、3月までっていうふうに言われてるんですけども、ここの部分は、是非12月の議会でしっかりと揉んでいただいて、その中である一定の方向性は、短期中期長期の3点については、ある程度の方向性を示してもらいたい。報告していただきたいというふうに思っています。併せて今回のゲート操作の関連についても、本当に人災でなかったのか、否かっていう点についても併せて御願ひしたい。で、明日、たぶん皆さんまだまだ来られると、回答が不十分だと思っていられる方もたくさんいると思います。ゲート操作の、規定、規則、どっちになってるのか分からないですけど、先ほど規則の2条、お示ししていただきましたよね。開示していただけますか。規則の開示。いいですか。はい。今、首を縦に振っていただけたので、生のやつをみせてください。はい、明日、期待します。